

日本株投資戦略6月号

-日本株、再評価への機運が高まるか-

令和4年6月1日

アイザワ証券 市場情報部

2022年6月1日発行／審査番号：220601-B1

LINE公式アカウント
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報
をお届けします。

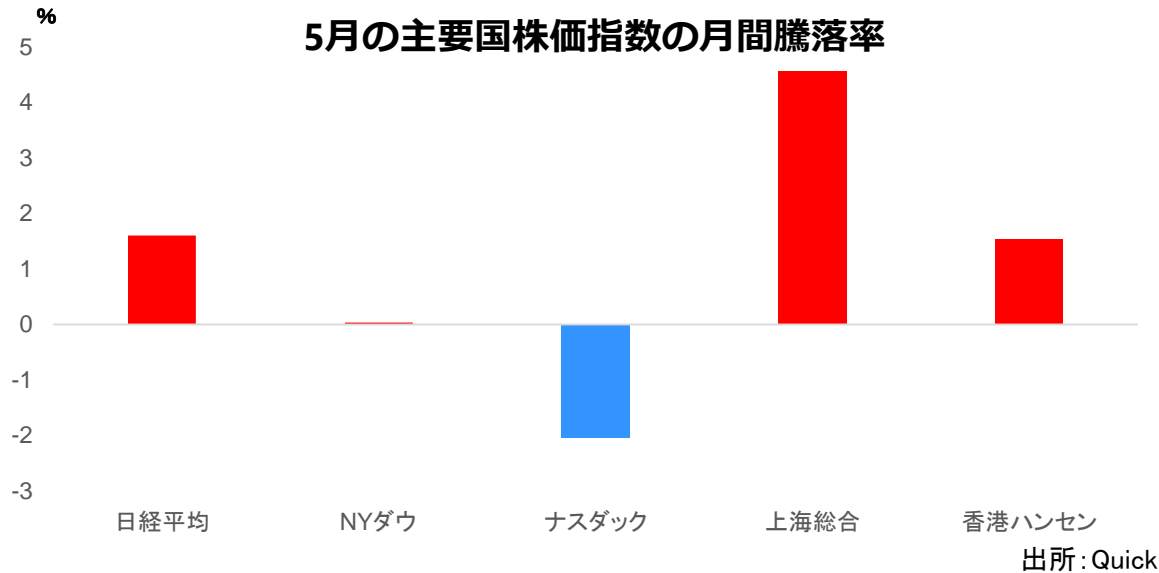
[友だち追加はこちらから！](#)



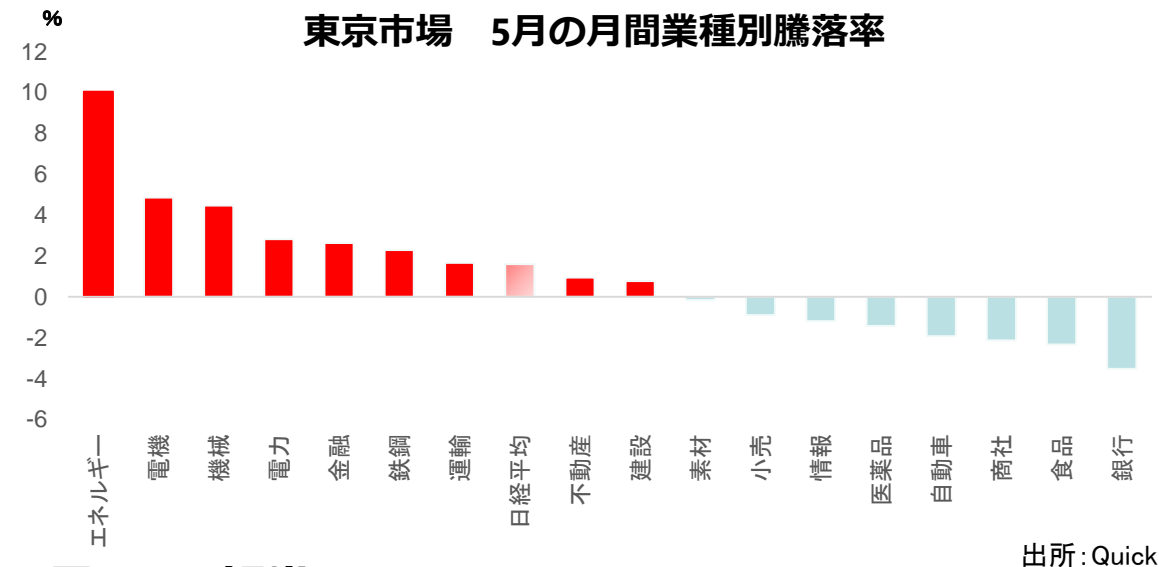
ID : @aizawa

- ・ 主要指数の騰落率
- ・ ドル円は130円をつける
- ・ 日経平均の推移
- ・ 今月のストラテジー
- ・ 今月の銘柄
 - ・ デンソー
 - ・ NTT
 - ・ テルモ
 - ・ TDK
 - ・ 新光電気工業
 - ・ 芝浦メカトロニクス
 - ・ ローツエ
 - ・ JAL
 - ・ 東日本旅客
 - ・ 三菱UFJ フィナンシャル・グループ
 - ・ SOMPOホールディングス
 - ・ 第一生命ホールディングス

主要指数の騰落率

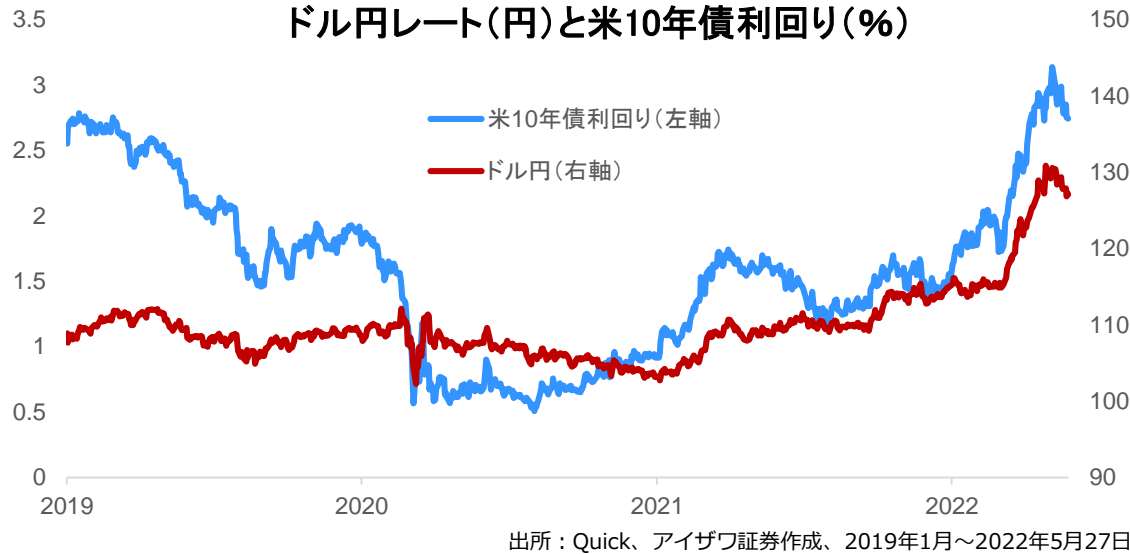


- ◆ アジアは堅調で米国は下落：5月の主要国株価指数の月間騰落率は、日経平均が+1.6%、NYダウがほぼ横ばい、ナスダックが▼2.0%、上海総合が+4.6%、香港ハンセンが+1.5%となるなど日本などアジア市場が堅調に推移、一方で米国市場は軟調であった。アジア市場では4月のパフォーマンスが低調であった反動から、5月はリバウンドの月となったが、米国では特にハイテク株は引き続き調整が続いた。



- ◆ 9業種が上昇：5月の業種別騰落率は17業種のうち9業種が上昇した。ウクライナ情勢の長期化から原油価格が上昇したことにより、エネルギーが上昇率のトップとなった。電機、機械など好業績な業種も買われた。銀行、食品といった内需ディフェンシブなセクターが下落した。

円安、米10年債利回りの上昇は一服

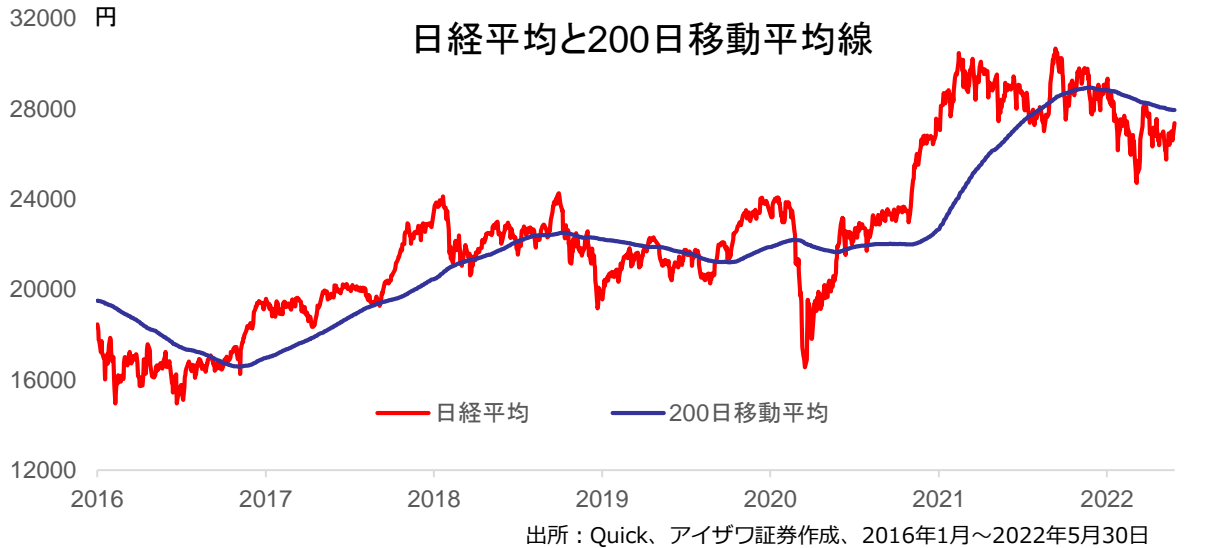


- ◆ 円安の進行が一服：5月のドル円は5月上旬に130円を上回る円安をつけたのち、やや円高に振れて3月上旬から続いていた円安ドル高が一服した。その背景には、米国10年債利回りが低下したことがある。昨年末からインフレが顕著となった米国では、インフレ鎮静化のための利上げ政策が既定路線となっており、米10年債利回りは急ピッチに上昇し、一時は3%を超えた。5月に入って米国10年債利回りは一服感から低下しており、このことが円高進行に歯止めをかけている。



- ◆ 今年に入って、グローバル株式市場では高PER銘柄の下落が目立つ。ハイテク銘柄の代表的な指数であるSOX指数をみると、ピークからの下落率は一時▼20%を超えている。現在の水準は、2020年から続いた超金融緩和相場によってファンダメンタルズ以上に上昇しすぎた分の剥落ともいえようが、指数の底打ちを期待するには米国10年債利回りの落ち着いた必要となろう。

日経平均の推移



- ◆ 底堅さがみられた5月：5月の日経平均は、企業業績は堅調ななか、上旬には2万6000円を下回る水準にまで下落した。もっとも日経平均は2万6000円を下回った翌日には2万6000円台を回復しているの、2万6000円を下回った水準では買いの意欲が強いといえ、下値に底堅さがみられた月であった。



- ◆ 堅調な企業業績でバリュエーション妙味：底堅さをみせた5月の日経平均だが、予想PERは13倍台とバリュエーション的には割高感が小さい。今期の会社予想の想定為替レートには1ドル115円、120円を設定している企業が多く、グローバル企業を中心に業績の上振れ期待が強いことも日経平均を下値で支える要因であろう。

底堅い値動き

5月の日経平均は上旬こそ地合いの弱さから2万6000円を割る局面がみられたものの、下旬にかけて持ち直し、月間の騰落率は+1.6%と2カ月ぶりの上昇で終えた。日経平均の上昇は小幅高に終わった月ではあったが、結論としては底堅い動きの1カ月であった。主要国の株式市場は相変わらず軟調であったが、先月末の後半から本格化した3月決算企業の決算がデジタル関連銘柄を中心に好調であったことや、ドル円で円安が進行したこと、バリュエーションに割高感が小さいことが再評価される動きを強めた。個別銘柄の材料としては、企業の決算発表といった一大イベントが通過したなか、今月末に控える株主総会へ注目は集まろう。

節目の200日移動平均線を視野

日経平均の5月末の終値は2万7279円であった。節目である200日移動平均線(約2万7940円)まで、およそ700円弱の水準にまで迫っており、6月の高値目途としては、200日移動平均線を上回る展開も期待出来よう。堅調な企業業績、1ドル125円を上回る円安、日経平均予想PERが13倍台であることを考えると、日経平均は200日移動平均線を上回って上昇トレンドを形成するポテンシャルはあると言えようが、株式の地合いの悪さが上値を抑えている印象である。日経平均が200日移動平均線を突き抜けて上昇トレンドを形成するには、米国における原油高の抑制、インフレ鎮静化による株式の需給好転のサインが必要だろう。

グローバル市場で日本の評価が高まるか？

今年に入り、主要国の市場はベア相場が目立ち、年初からの騰落率は日経平均▼5.3%、NYダウ▼9.2%、ナスダック▼22.8%、中国CSI300▼17.2%、香港ハンセン▼8.5%である。こうしたなか、日経平均も年初からは下落しているが下落率は比較的に小さい。バリュエーション面、円安ドル高の動きを考えたら今年には日本株が再評価される期待が高まるといえよう。

横山 泰史

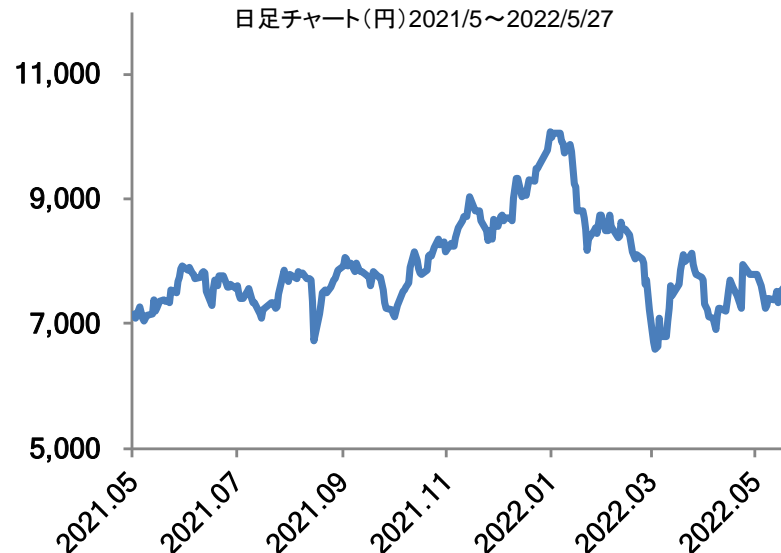
今月の個別銘柄

今月の注目銘柄

- ・デンソー
- ・NTT
- ・テルモ
- ・TDK
- ・新光電気工業
- ・芝浦メカトロニクス
- ・ローツエ
- ・JAL
- ・東日本旅客
- ・三菱UFJ フィナンシャル・グループ
- ・SOMPOホールディングス
- ・第一生命ホールディングス

株価:(2022/5/27)	7,527円
52週高値:(2022/01/06)	10,185円
52週安値:(2022/03/08)	6,584円
予想PER	13.2倍
PBR	1.3倍
予想配当利回り	2.3%
時価総額	59,308億円
取引単位	100株
取引市場	プライム

出所: QUICK



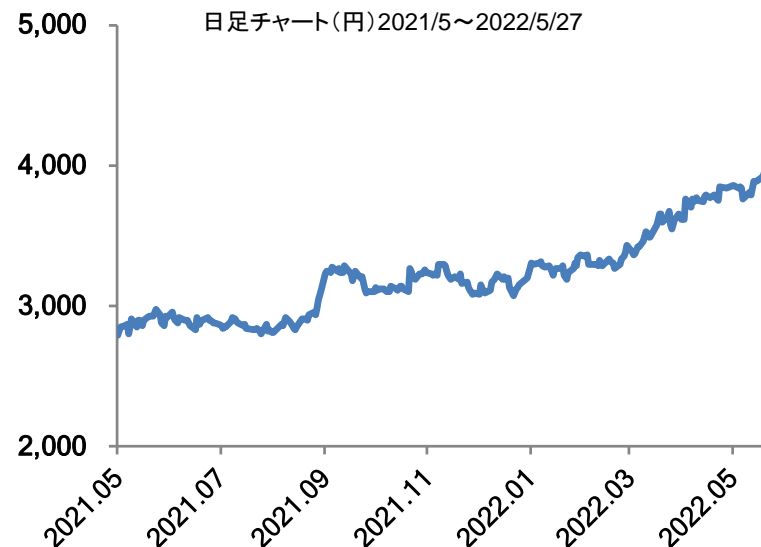
- トヨタ系で自動車部品大手。2022.3期の決算は売上高が前期比+11.7%の5兆5155億円、営業利益が同+120.0%の3411億円と2桁の増収と大幅増益を確保した。
- 会社予想による2023.3期の見通しは、売上高が前期比+15.1%の6兆3500億円、営業利益が同+64.1%の5600億円である。半導体不足によって生産調整が強いられているトヨタの生産が回復するようならば、業績の更なる拡大が期待出来よう。(横山 泰史)

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2021/03 実績	49,367	▼4.2%	1,551	153.9%	1,937	116.2%	1,250	83.6%	161.3	140.0
2022/03 実績	55,155	11.7%	3,411	120.0%	3,848	98.6%	2,639	111.0%	342.7	165.0
2023/03 予	63,500	15.1%	5,600	64.1%	6,030	56.7%	4,340	64.5%	568.5	180.0

国際会計基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2022/5/27)	3,996円
52週高値:(2022/05/27)	4,055円
52週安値:(2021/07/30)	2,799.5円
予想PER	11.8倍
PBR	1.7倍
予想配当利回り	3.0%
時価総額	144,735億円
取引単位	100株
取引市場	プライム

出所: QUICK



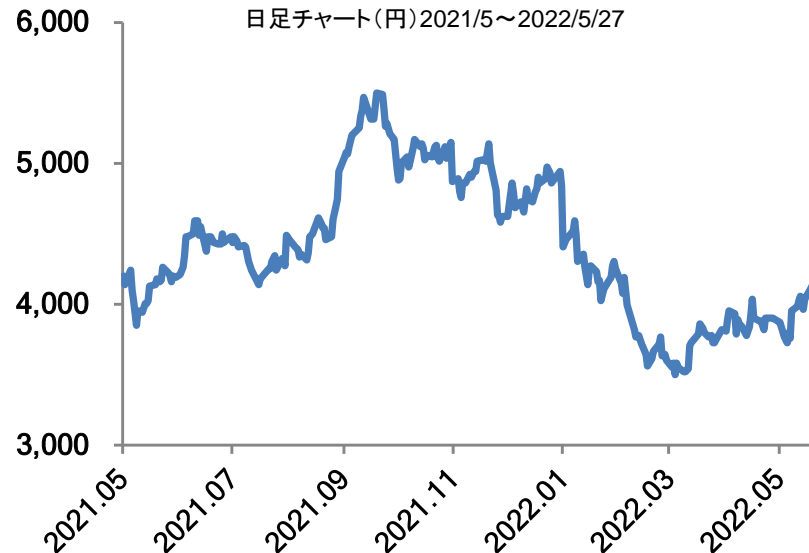
- 2022.3期の決算は、売上高、営業利益ともに過去最高を更新することが期待されている。株主還元積極的に、2022.3期の1株当たりの配当は10円の増配を予定、上期の決算発表時には、発行済株式総数の7.15%にあたる約2.8億株の自己株式の消却を決議している。
- 中期経営計画では、コストの削減、新生ドコモグループのシナジー効果等により、2024.3期にEPS370円を目標としている。(横山 泰史)

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2021/03 実績	119,439	0.4%	16,713	7.0%	16,525	5.3%	9,161	7.1%	248.1	105.0
2022/03 実績	121,564	1.8%	17,685	5.8%	17,955	8.7%	11,810	28.9%	329.2	115.0
2023/03 予	126,000	3.6%	18,200	2.9%	18,220	1.5%	11,900	0.8%	340.0	120.0

国際会計基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2022/05/27)	4,159円
52週高値:(2021/09/24)	5,500円
52週安値:(2022/03/09)	3,479円
予想PER	31.4倍
PBR	3.1倍
予想配当利回り	0.8%
時価総額	31,588億円
取引単位	100株
取引市場	プライム

出所:QUICK



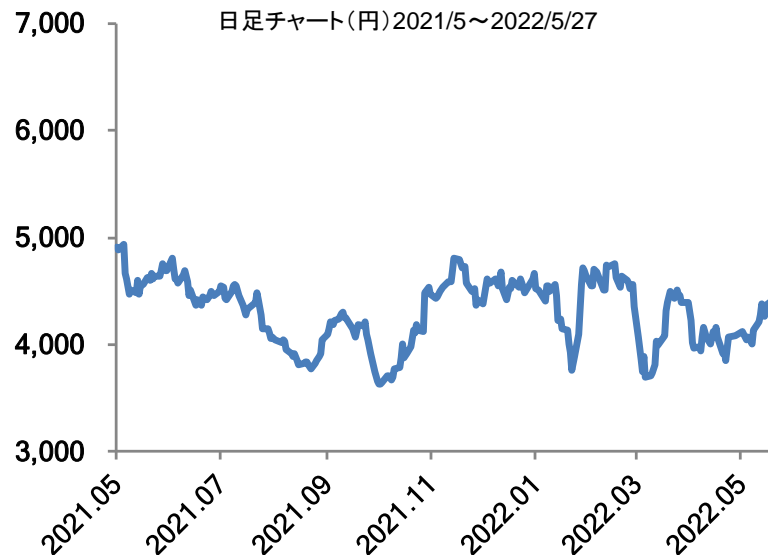
- カテーテルなどに強みを持つ大手医療機器メーカー。地域別の売上高構成比は日本29%、米州31%、欧州20%、中国8%、アジア他11%と、海外で活躍するグローバル企業。
- 2023.3期の会社予想では売上高は前期比+10.2%、営業利益は同+13.8%の増収増益となる見通し。新型コロナの落ち着きによりコロナ以外の医療機器に対する需要の高まりが期待される。(横山 泰史)

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2021/03 実績	6,138	▼2.4%	983	▼11.1%	970	▼8.8%	772	▼9.3%	102.3	29.0
2022/03 実績	7,033	14.6%	1,159	17.9%	1,145	18.0%	888	14.9%	117.4	34.0
2023/03 予	7,750	10.2%	1,320	13.8%	—	—%	1,000	12.6%	133.8	36.0

国際会計基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり、2020.3期に会計基準を変更、2021年9月30日を基準日に1株を5株に株式分割を実施、遡及修正済) アイザワ証券作成

株価:(2022/5/27)	4,315円
52週高値:(2021/11/24)	4,880円
52週安値:(2021/10/06)	3,560円
予想PER	11.2倍
PBR	1.2倍
予想配当利回り	2.4%
時価総額	16,775億円
取引単位	100株
取引市場	プライム

出所: QUICK



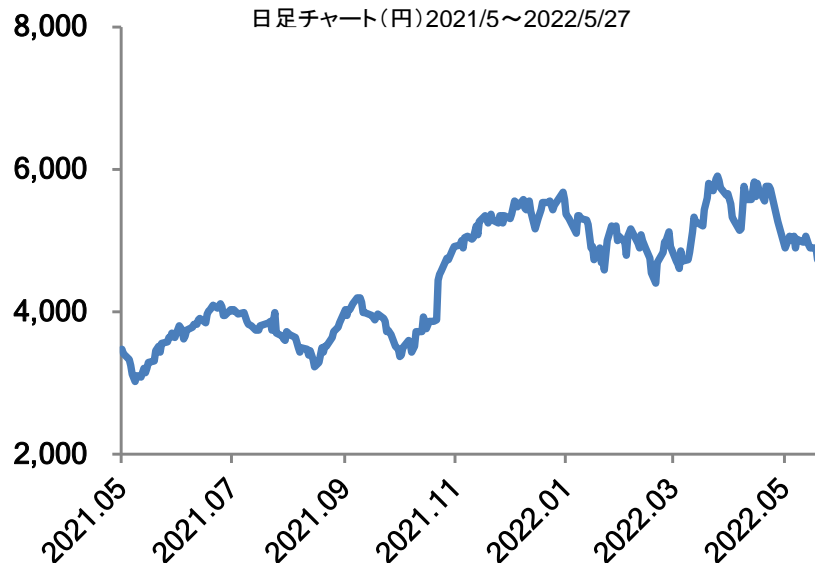
- 磁気材料を軸にグローバル展開する電子部品会社。スマホなどで使用されるモバイル向け小型バッテリーで世界No.1のシェアを誇る。成長ドライバーのバッテリーでは、小型から家庭用向けなど中型へと事業を拡大している。
- 2022.3期の決算は堅調なエレクトロニクス需要によって、売上高、営業利益ともに過去最高を達成。今期から従来の米国会計基準から国際会計基準に変更。(横山 泰史)

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2021/03 実績	14,790	8.5%	1,115	14.0%	1,219	27.1%	793	37.3%	209.3	60.0
2022/03 実績	19,021	28.6%	1,666	49.4%	2,341	92.1%	1,836	131.4%	484.5	78.3
2023/03 予	22,000	—%	1,850	—%	1,900	—%	1,450	—%	382.5	106.0

国際会計基準、2022.3期以前は米国会計基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり、2021年9月29日に1株を3株に株式分割を実施、遡及修正済) アイザワ証券作成

株価:(2022/5/27)	4,655円
52週高値:(2022/03/30)	5,990円
52週安値:(2021/08/20)	3,210円
予想PER	10.6倍
PBR	3.1倍
予想配当利回り	1.0%
時価総額	6,292億円
取引単位	100株
取引市場	プライム

出所: QUICK



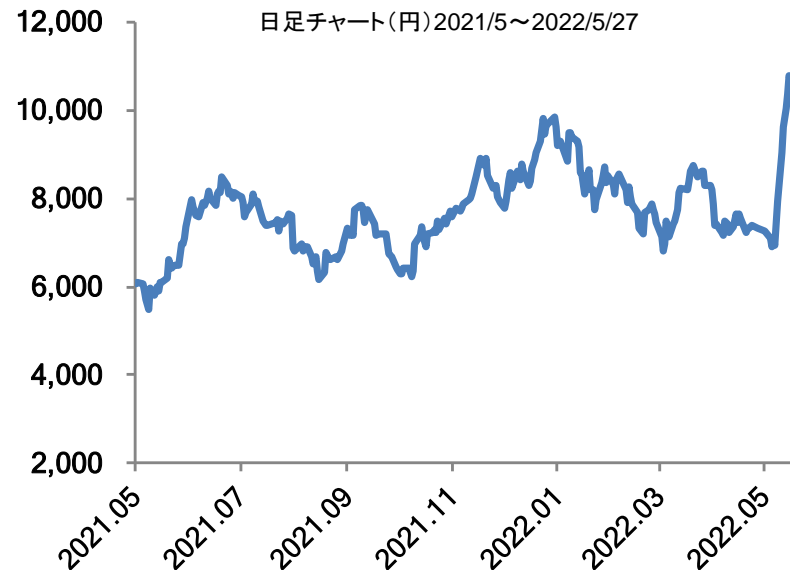
- ◆ 半導体パッケージの開発・製造をおこなう。高機能なパッケージに対する重要性が高まっている。高機能パッケージは単価が高く、足元における収益性の改善に貢献している。
- ◆ フリップチップタイプパッケージの好調により業績は好調。2022.3期の営業利益は前期比+206.0%の大幅増益であったが、2023.3期も会社予想の営業利益は前期比+19.1%と2桁の増益見通しである。(横山 泰史)

業績推移	売上高		営業利益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2021/03 実績	1,880	26.8%	233	622.7%	265	450.7%	180	569.7%	133.3	30.0
2022/03 実績	2,719	26.8%	713	206.0%	758	186.0%	526	192.1%	389.5	45.0
2023/03 予	3,170	16.6%	850	19.1%	850	12.1%	590	12.1%	436.7	50.0

日本基準 (単位: 億円、予: 会社予想) EPS、配当1株当たり アイザワ証券作成

株価:(2022/5/27)	10,640円
52週高値:(2022/05/20)	10,970円
52週安値:(2021/10/05)	6,090円
予想PER	9.2倍
PBR	1.9倍
予想配当利回り	3.2%
時価総額	552億円
取引単位	100株
取引市場	プライム

出所: QUICK



- ◆ FPD(フラットパネルディスプレイ) 製造装置、半導体製造装置などの製造装置の開発製造を行っている。半導体製造装置は前工程における半導体ウェーハの製造工程にて使用される洗浄装置やエッチング装置などを扱っている。
- ◆ 半導体製造装置では暫くの間、ウェーハ製造メーカーによる大型投資が低迷していたが、ウェーハ大手のSUMCOが新工場の建設計画を発表。(横山 泰史)

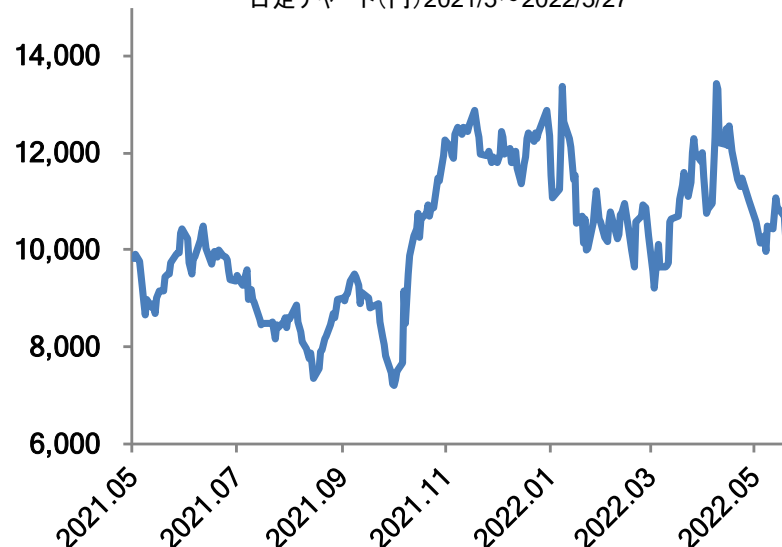
業績推移	売上高		営業利益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2021/03 実績	447	▼5.0%	29	▼5.3%	28	1.8%	19	1.3%	446.1	110.0
2022/03 実績	492	10.0%	50	70.8%	48	73.0%	29	51.5%	675.4	230.0
2023/03 予	560	13.7%	67	32.6%	65	33.3%	51	71.0%	1,154.0	350.0

日本基準 (単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2022/5/27)	10,440円
52週高値:(2022/04/14)	13,580円
52週安値:(2021/10/05)	7,000円
予想PER	9.9倍
PBR	3.9倍
予想配当利回り	1.0%
時価総額	1,841億円
取引単位	100株
取引市場	プライム

出所: QUICK

日足チャート(円)2021/5~2022/5/27



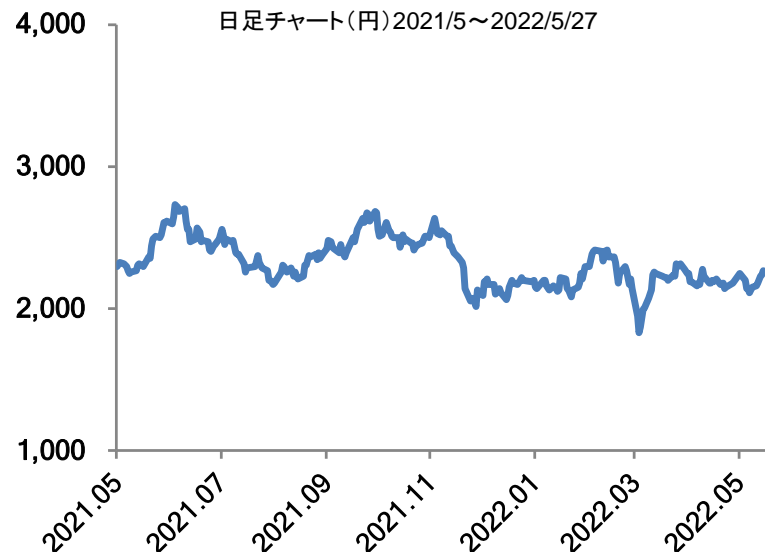
- ◆ 半導体の製造現場にて使用される、ウェーハ運搬用ロボットの製造販売などを手掛ける。世界的な半導体業界の大型投資の影響で業績は好調。
- ◆ 2023.2期の会社予想は、売上高が前期比+32.4%と過去最高の売上高を更新計画。業績の拡大が予想されることから通期の一株当たりの配当金予想を110円（前期は65円）に引き上げている。（横山 泰史）

業績推移	売上高		営業利益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2021/02 実績	508	36.9%	93	20.3%	84	12.9%	64	18.3%	374.4	30.0
2022/02 実績	670	31.9%	158	69.7%	178	109.9%	128	98.2%	742.1	65.0
2023/02 予	887	32.4%	247	56.4%	247	38.9%	181	41.6%	1,051.1	110.0

日本基準 (単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり アイザワ証券作成

株価:(2022/5/27)	2,374円
52週高値:(2021/06/10)	2,744円
52週安値:(2022/03/08)	1,801円
予想PER	—倍
PBR	1.2倍
予想配当利回り	—%
時価総額	10,377億円
取引単位	100株
取引市場	プライム

出所: QUICK



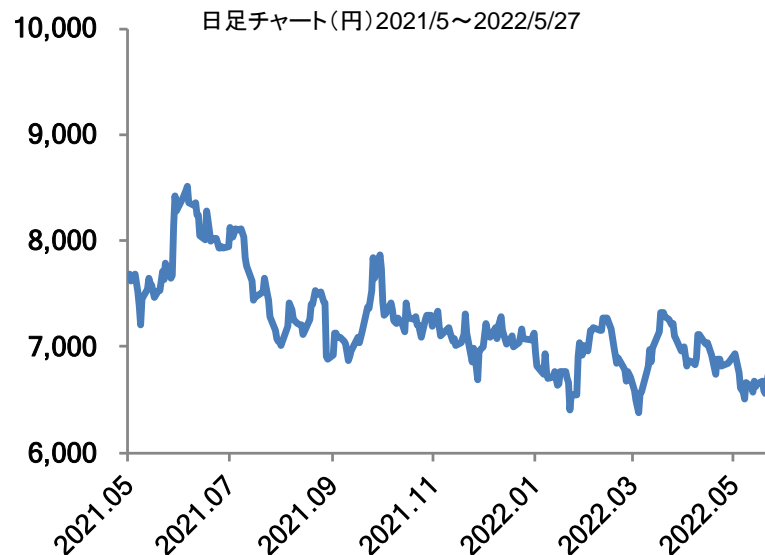
- 新型コロナの影響によって、2022.3期の純利益は▼1775億円の損失を計上。2023.3期は3期ぶりの黒字が計画されている。
- 新型コロナの落ち着きにより、日本政府は新型コロナの影響によって落ち込んだ国内外の観光客の呼び起こし政策を推し進めることが予想される。同社にとって追い風の事業環境となろう。(横山 泰史)

■業績推移	売上高	営業利益	税前利益	純利益	EPS(円)	配当金(円)
2021/03 実績	4,812 ▼65.3%	—	▼4,040 —%	▼2,866 —%	—	0.0
2022/03 実績	6,827 41.9%	—	▼2,466 —%	▼1,775 —%	—	0.0
2023/03 予	13,900 103.6%	—	— —%	450 —%	—	—

国際会計基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり アイザワ証券作成

株価:(2022/5/27)	6,697円
52週高値:(2021/06/10)	8,569円
52週安値:(2022/03/09)	6,373円
予想PER	42.1倍
PBR	1.1倍
予想配当利回り	1.4%
時価総額	25,310億円
取引単位	100株
取引市場	プライム

出所: QUICK



- 鉄道事業を中心に流通、不動産、宿泊事業などを手掛ける。収益力向上への取り組みとして、旅行、移動需要の喚起、多様で魅力のあるまちづくりに取り組んでいる。
- 2022.3期も2021.3期に続き、新型コロナの影響によって厳しい決算であった。2023.3期は収益柱である新幹線の需要が徐々にではあるが回復することにより、純利益は3期ぶりの黒字となる見通しである。(横山 泰史)

業績推移	売上高	営業利益	税前利益	純利益	EPS(円)	配当金(円)
2021/03 実績	17,645 ▼40.1%	▼5,203	▼5,797	▼5,779	—	100.0
2022/03 実績	19,789 12.1%	▼1,539	▼1,795	▼949	—	100.0
2023/03 予	24,530 24.0%	1,530	980	600	159.0	100.0

国際会計基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり アイザワ証券作成

株価:(2022/05/27)	738.8円
52週高値:(2022/03/23)	828.3円
52週安値:(2021/07/20)	564.4円
予想PER	一倍
PBR	0.5倍
予想配当利回り	4.3%
時価総額	98,127億円
取引単位	100株
取引市場	プライム



出所: QUICK

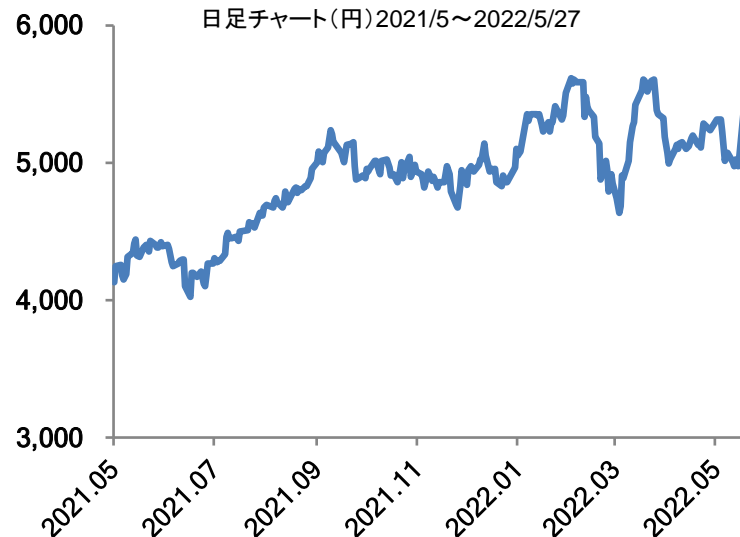
- ◆ 銀行大手（メガバンク）の一角、銀行、信託、証券、カード・ローンなどに展開。アジアに銀行子会社、米モルガン・スタンレーは持分法適用関連会社。
- ◆ 2022年3月期の実績は 増収・増益、市場部門を除く全部門で堅調。増配と自己株取得3000億円も発表。2023年3月期の純利益目標は1兆円、減益予想だが、米子会社売却関連費用など織り込み。金融環境好転と株主還元注目。（水口 活也）

■業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2021/03 実績	60,253	▼17.5%	10,536	▼14.7%	7,770	47.1%	60.5	25.0
2022/03 実績	60,758	0.8%	15,376	45.9%	11,308	45.5%	88.4	28.0
2023/03 予	—	—%	—	—%	10,000	11.5%	—	32.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2022/05/27)	5,797円
52週高値:(2022/05/27)	5,848円
52週安値:(2021/06/21)	4,010円
予想PER	12.4倍
PBR	1.0倍
予想配当利回り	4.4%
時価総額	20,165億円
取引単位	100株
取引市場	プライム

出所: QUICK

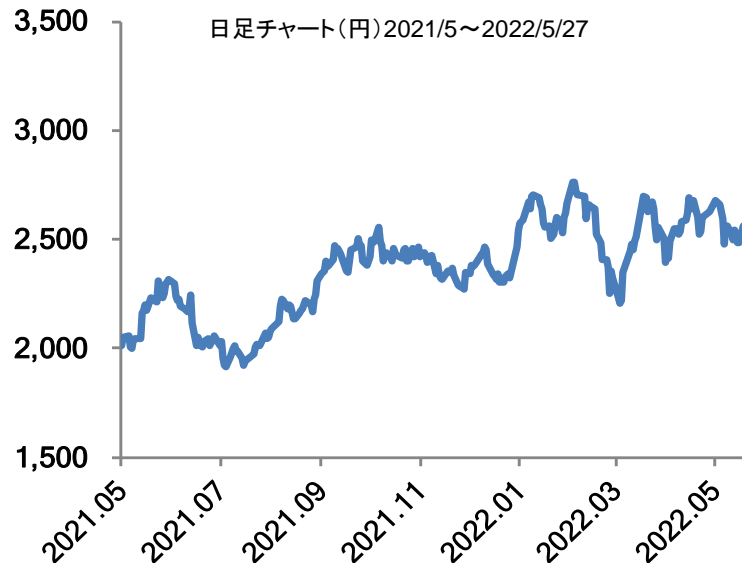


- ◆ 国内損害保険大手の一角、自動車や火災など損害保険が主力だが、生命保険や海外保険、介護にも事業展開。災害影響を収益多様化とリスク分散で吸収。
- ◆ 2022年3月期の実績は、増収・増益、主力の損害保険が改善、連続増配と自己株取得580億円を発表。2023年3月期の会社業績予想は減益、株式売却益の反動が主因、保険事業は堅調継続。ROE10%と総還元性向50%が中期目標。 (水口 活也)

■業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2021/03 実績	38,463	2.3%	2,150	11.8%	1,424	16.3%	397.4	170.0
2022/03 実績	41,674	8.4%	3,155	46.7%	2,248	57.8%	644.2	210.0
2023/03 予	—	—%	2,350	▼25.5%	1,600	▼28.8%	467.0	260.0

日本基準 (単位: 億円、予: 会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2022/05/27)	2,582.0円
52週高値:(2022/02/09)	2,816.5円
52週安値:(2021/07/09)	1880円
予想PER	9.2倍
PBR	0.6倍
予想配当利回り	3.3%
時価総額	26,629億円
取引単位	100株
取引市場	プライム



出所: QUICK

- ◆ 国内生命保険大手、対面営業の生保が主力だが、特化型生保や損害保険、海外保険、資産運用にも事業展開。海外では、北米、豪州、アジアなどに子会社。
- ◆ 2022年3月期の実績は 増収・増益、資産運用と海外子会社が寄与、増配と自己株取得1200億円を発表。2023年3月期の会社業績予想は、減収・減益だが、一時的利益の反動減を除くと堅調継続。資本利益率向上と株主還元注目。(水口 活也)

業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2021/03 実績	78,278	10.0%	5,528	153.2%	3,637	—%	325.6	62.0
2022/03 実績	82,097	4.9%	5,908	6.9%	4,093	12.5%	383.1	83.0
2023/03 予	76,120	▼7.3%	5,120	▼13.4%	2,850	▼30.4%	278.1	86.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり アイザワ証券作成

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：アイザワ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3283号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）



株式投資の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

お客様にご負担いただく手数料等について

取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大1.265%（最大149,875円、2,750円に満たない場合は2,750円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大1,650円

コールセンター発注 約定代金が55万円以下の場合は1,650円、約定代金が55万円超3,000万円以下の場合は3,300円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大1.265%（最大149,875円、2,750円に満たない場合は2,750円）

アイザワ証券 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。

本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。

結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。

執筆担当者または弊社と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。

このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。